

古典教材への関心・意欲を高める指導のあり方

～ 教材・教具の工夫と開発を通して ～

目 次

I	テーマ設定の理由	41
II	研究仮説	41
III	研究の全体構想図	42
IV	研究の内容	43
1	古典教材の指導について.....	43
(1)	古典指導のねらい.....	43
(2)	関心・意欲を高める指導とは.....	43
(3)	「表現」領域で重視したいこと.....	44
(4)	「理解」領域で重視したいこと.....	44
(5)	「言語事項」で重視したいこと.....	44
2	教材・教具の工夫と開発.....	45
(1)	中学生にふさわしい古典教材とは.....	45
(2)	古典学習における教材・教具の工夫.....	45
3	課題解決的学習の指導方法.....	47
(1)	課題解決的学習の目的と有義.....	47
(2)	学習課題設定の方法.....	47
(3)	学習形態の工夫.....	47
4	新しい学力観に立つ評価.....	49
(1)	評価の有義.....	49
(2)	評価の現状と問題点.....	49
(3)	古典学習における評価（1学年）.....	49
(4)	課題解決的学習発表会における評価の工夫.....	50
(5)	個に応じた指導の工夫.....	51
V	授業実践.....	52
1	単元名.....	52
2	単元の目標.....	52
3	単元設定の理由.....	52
4	教材名.....	52
5	教材について.....	52
6	生徒の実態.....	52
	〈アンケート集計結果〉.....	53
7	指導計画.....	54
8	本時の指導.....	55
9	《資料》ワークシートの工夫.....	58
10	検証授業を終えて.....	59
VI	研究の成果と今後の課題	60

古典教材への関心・意欲を高める指導のあり方

～ 教材・教具の工夫と開発を通して ～

宜野湾市立真志喜中学校 教諭 宮 城 優 子

I テーマ設定の理由

現代の子供たちはめまぐるしく変化する社会の中で生活している。その対応の一つとして学習指導要領では、「新しい学力観」に立った教育課程を打ち出し、創造的思考や表現力を育てる授業を重視している。そこで古典教材を取り上げる際にもそれを念頭において授業を進めたい。中学校における古典学習の意義は

- (1)自己の生き方を考えるうえでの資料とする。
- (2)広く人間愛・人類の問題を考える手がかりとする。
- (3)古代の人々の生き方・考え方を知る。
- (4)古い日本語について学ぶ。
- (5)過去の言語作品についての知識をもつ。

等があげられる。古典は私達祖先の残した貴重な文化遺産であり、古典から現代の文字や文学が生まれてきたように、古き文学を繙かねば現在の生活も深まりがないように思える。

古典学習では、一語一語の言葉を大切に扱う習慣を身に付けさせなければならない。言葉を大切に扱うとは、言葉をその文脈の中で理解させると同時に、言葉をその作品の時代・社会に還元してつかむことで古人の息づかいを言葉の調子や響きなどに探ることもできる。

これまでは、教師中心の授業で文法解釈が多かったせいか、「古典」と聞くと子供たちは「難しい」「おもしろくない」という返事が多かった。そこで今後は教師の読解中心等の一方的な指導ではなく、生徒が自ら学びたいという主体的な意欲を促したい。それには、古文の音読や暗唱により興味をもたせる方法、古代の風俗・習慣がわかる有職故実などのパネル教材で当時の生活に触れさせる方法、ビデオにより作品の時代背景を理解させる等の教材・教具の工夫が必要である。

古典を学ぶことは現代を学ぶことだとも言われているようにさまざまな発見ができる。古典をより身近に感じさせるために郷土文学にも触れさせ、学習を幅広いものにしていきたい。

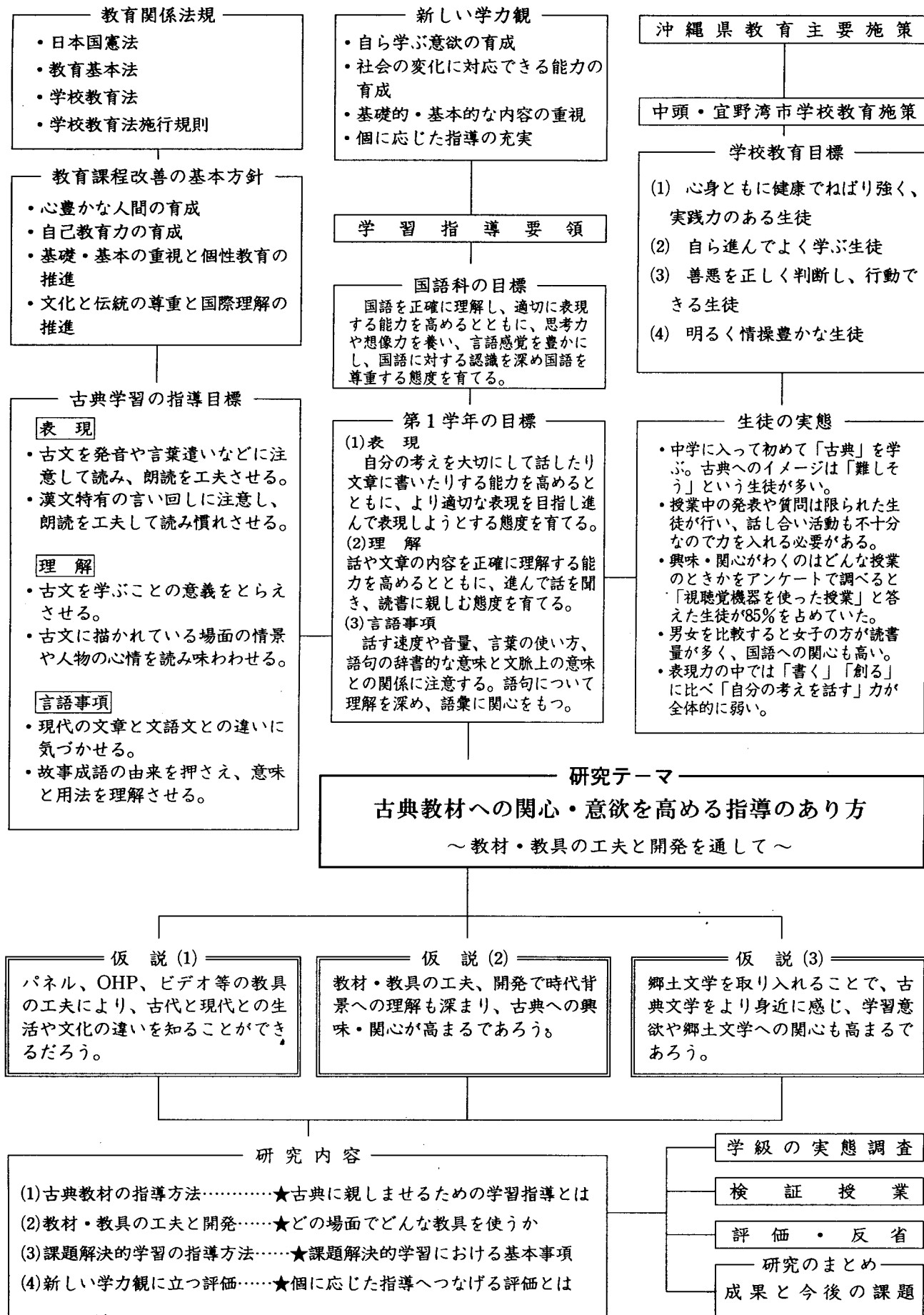
このように古典の学習を通して子供たちが、自国の文化遺産に対する誇りや郷土への関心をもってくれれば幸いである。

現代もその価値を失わない言語文化としての「古典」に是非親しんでほしいと願い本テーマを設定した。

II 研究仮説

- (1) フラッシュカード、パネル、OHP、ビデオ等の教材・教具の工夫をすることにより視覚に訴え、古代と現代との生活や文化の相違点、共通点を知ることができるだろう。
- (2) 教材・教具の工夫と開発で時代背景への理解も深まり、古典への興味・関心が高まるであろう。
- (3) 郷土文学を取り入れることで、古典文学をより身近に感じることができ、古典に対する学習意欲や郷土文学への関心も高まるであろう。

III 研究の全体構想図



Ⅳ 研究内容

1. 古典教材の指導について

(1) 古典指導のねらい

学習指導要領における古典指導の意図・目的は次のように示される。「古典の指導については①古典としての古文や漢文を理解する基礎を養い②古典に親しむ態度を育てると共に③我が国の文化や伝統について関心を深めるようにすること。」となっている。このように一つ目は文学史、作品、時代、古語、有職故実などの理解の「基礎を養う」ことが指摘されている。古典としての価値をもつ古文や漢文を教材として取り上げる必要がある。二つ目は文語文法などの学習の強要などによる古典嫌いの増加を受けた指摘で、学習者が古典に興味・関心を抱き、その学習に意欲をもつような学習を配慮したいという指摘である。三つ目は古典を学習することによって広く日本文化への興味・関心を抱くことを指摘している。

「古典ほど古くて新しい教材はない」と考える人もいるように作品そのものが史的背景を担い、時代の精神文化を今に伝える価値は現代の我々の心に伝わるものがあり、深い感銘を与える。古典に親しみ、ものの見方、感じ方、考え方を深くし、人生を豊かにする態度の育成は古典指導の目標の根幹となるべきことではないだろうか。

(2) 関心・意欲を高める指導とは

古典の場合は指導の仕方一つで生徒を古典好きにも古典嫌いにも仕向けてしまう傾向がある。しかし、学ぶことの意義や大切さを問えば古典の学習を否定する者は少ないだろう。従って指導法の工夫、とりわけ学ぶ側の関心・意欲を高める方法を発見することが大切である。具体例として次の項目が考えられる。

イメージ化 ……各文章表現の内容をイメージとして明確にとらえるようにする。
視覚的映像として描きだしたり先人の心情を想像したりする。
例（ペープサート、紙芝居、創作劇、絵巻）

朗読化 ……本文の情趣が表れるように音声的イメージを工夫する。
例（役割読み、朗読、群読、暗唱）

内省化 ……人々の生き方や考え方などについて自分に結びつけてとらえる。
そして、現代人の生き方などをとらえ直す手立てとする。
例（短作文、感想文、課題解決学習、単元学習）

読書化 ……関連する作品や同じ作品の他の部分などを読み広げる。
例（発展学習、他作品との読み比べ、郷土文学の導入）

語句の内実化 ……興味をもつ語句や当時の大切な語句についていろいろな角度から掘り下げて現代に生かすように試みる。
例（対比読み、重要古語の暗記、口語訳、同一素材の収集）

あらすじ
の表現

……その作品のあらすじを、主題や人物の気持ちなど配慮に入れてまとめる。

例（紙芝居づくり、紙芝居の比較、新聞づくり、ワークシート）

(3) 「表現」領域で重視したいこと

古典としてのそれぞれの作品を親しませる有効な指導法の一つに「朗読化」という音声言語指導が上げられる。まず、音読、朗読により古文の調子やリズムに慣れさせ、群読や暗唱へと発展させる手法は、生徒の心を作品の世界に近付け、意欲と関心を高めるのに役立つ。

古典指導では、仮名遣い、古語の意味、文法の三点が読みを進めていく上で抵抗感を感じるものではあるが、グループ別に役割読みをさせたり、登場人物の心情になりきって朗読させることで作品理解も深まることであろう。下の表は暗唱までに六つの段階を

★古文音読チャレンジカード	年	級	番	氏名	1	2	3	4	5	6
歴史的仮名づかいを現代仮名づかいに直して読める	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
言葉のまとまりに注意し、正しく区切って読める	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
漢字が正しく読める	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○
現代文と同じくらいにすらすら読める	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○
半分以上暗唱できる	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○
最後まですらすら暗唱できる	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○



設け個々のペースや能力に合わせて音読、朗読、暗唱できるようにしたもので、自己評価をさせた後、教師による暗唱テストを実施した。その結果ほとんどの生徒が冒頭文を覚えることに意欲を示し、九割の生徒が暗唱テストに合格した。

私達祖先の使っていた言葉を音として口でそらんじることにより、言葉の心地よさを味わうことができた。

(4) 「理解」領域で重視したいこと

①文章の読解における最も基礎的な学習事項として「文章の内容を的確にとらえること」があげられる。

②作者のものの見方や考え方、登場人物の生き方について考えること。さらに読書への発展をめざす学習が期待される。

③古語の解釈は、基本的用法については辞書や教科書の脚注等で理解することになるが、具体的な意味は文脈の中で確認することが肝要である。

④文章の表現に即して主題を考えることがあげられる。作品を通して作者が伝えたかったことをとらえる力を養うことも大切である。

⑤情景や心情の描かれているところを読み味わい、自分の感想をもつこと。物語・随筆・和歌・俳諧のいずれの分野においても、自然描写・情景描写は古典文学の特徴とも言えるので、季節の変化に富んだ日本の風土を読みとらせたい。また、格調高い優れた表現を味わわせることで古人の心にふれさせたり、創作活動によって追体験させることもできる。

(5) 「言語事項」で重視したいこと

①語彙については「無常」「あはれ」などの概念を中学生が実感として理解するのは困難だと思われるので、語自体の意味より、その語によって表されている内容について考える方向が望ましい。

②文、文章については音読によって言葉のまとまりや切れ目を理解させ、繰り返しによって感覚を養うことである。現代に用いられている古文・漢文の例を集めて興味をもたせる方法もある。

2. 教材・教具の工夫と開発

「学習指導書」では教材の選定について次のように説明している。「生徒の学習の実態、発達段階を的確に把握し、それに応じたものを選定することが大切である。古典の文章にも様々なものがあり、(a)学習を通して生徒に古典への関心を抱かせるもの(b)作者や作品に興味・関心を抱かせるもの(c)古典の世界が形成し今日にも生き続けている伝統等について考えさせるもの」となっている。

(1) 中学生にふさわしい古典教材とは

- ①古典に関心をもたせるように書いた文章
- ②易しい文語文や格言・故事成語
- ③親しみやすい古典の文章

基礎・基本を養うもので文章の内容
→ や優れた表現を味わうことができる
ものを発達段階に即して適宜用いる。

(2) 古典学習における教材・教具の工夫

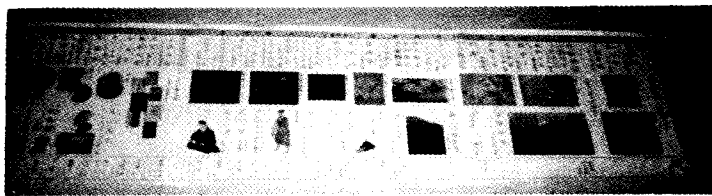
アンケート結果からもわかるように古典に対するイメージが「難しそう」「古い」ということから生徒に敬遠されがちであった。そのイメージを取り除き「親しみやすく身近にあるもの」「古きを温ねて新しきを知る」の発想へ変えるには教具の工夫も必然的に行わねばならない。そこで、学習過程における教材・教具の工夫について考えてみる

①導入の段階

一年生を対象にした初めての古典学習の場合は、興味を引くような教具作りと教材の開発が必要である。導入の段階でビデオを活用し、物語の概要や文学史的位置、登場人物等についての予備知識を与えることで、作品や作者への理解へつなげることができる。また、年表を常時掲示しておき時代の流れを目で追うことで時代差を考えさせられる。



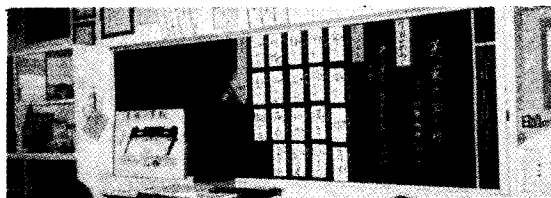
竹取物語のビデオ学習(導入)



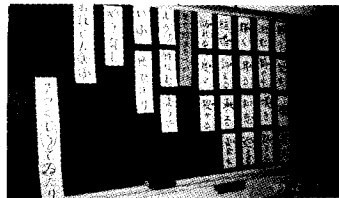
年表掲示

②学習中・学習後

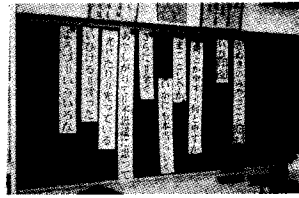
漢字、語句指導においては漢字カードを作成し、新出漢字を毎時間一斉読みさせて定着を図る。歴史的仮名遣いや古語の意味については、フラッシュカードによって印象づける。



新出漢字は○印で区別 裏に読み方を書き、書き取りに利用



歴史的仮名遣いを○で囲む



古語の意味をおさえる

指導内容に沿って有職故実パネルを用いることで視覚に訴えるわかりやすい説明ができ、具体的にイメージ化することもできる。また、音読指導では、テープレコーダーを使って原文の範読を聞いたり、グループ毎に録音して聞き合うこともできる。

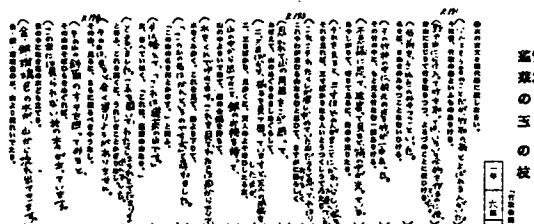


OHP教材づくり ・ パネル教材づくり

時間の節約と学習効果の効率化を図るために、ワークシート・OHPの活用がある。特に口語訳をワークシートに書き込んだり、課題解決的学習を進める上で必要になる。また評価においてもワークシートを利用して形成評価やまとめが効率的にできる。



有職故実パネルの利用



ワークシートを使っの口語訳

③発展学習（郷土文学の教材化）

古典教材の学習を終えた後に発展学習として郷土の古典を学ばせる方法もある。郷土の文学と同時に地域の方言にもふれさせる良い機会になるのではないだろうか。ここでは学年の発達段階に沿って郷土文学を取り入れた場合の例をあげてみる。日本の中でも独自の文化をもつ沖縄の文学を学ぶことで、さらに深く郷土を認識し、豊かな感性を磨き、創造の基盤を養うことができるようにしたいものである。

	教科書教材	郷土の文学
一年生	むかしむかし、うらしまは（浦島太郎） 蓬萊の玉の枝（竹取物語） 故事から生まれた言葉（故事成語）	七つ星の由来、トーカチ由来 羽衣伝説（沖縄の民話と伝説） 沖縄のことわざ
二年生	思いをつづる（枕草子・徒然草） 扇の的、漢詩の風景（平家物語・漢詩） 方言と共通語	あがる三日月（おもろさうし） 南走平家物語、郷土の詩 わらべ歌（方言）
三年生	君待つと（万葉集・古今和歌集） 東下り、夏草（伊勢物語・奥の細道） 学びて時にこれを習ふ（論語）	時代を生きる歌（琉歌） 執心鐘入（組踊） 丘の一本松（演劇シナリオ）

以上は生徒の興味・関心や実態に合わせ、1、2年生で学習困難なものは、3年生の選択教科において郷土教材を指導することもできる。3年生ともなると、精神的内面の充実、知的好奇心の高揚、応用力発揮の可能性等、個別化を重視した授業が期待できる。「伝統や文化」への関心を高めるための手立てとして郷土教材を導入した古典学習では、日本の優れた文化のもつ価値を吸収し、自己を高め、広い視野に立って異文化を理解し、尊重する態度が養われるのではないだろうか。

3. 課題解決的学習の指導方法

(1) 課題解決的学習の目的と意義

課題解決的学習の目標は、自分の課題を設定し、調べたことを相手によくわかるように工夫して発表したり、発表内容を聞いたりして興味や関心をもったり、自分の考えを深めたりすることである。また、調べ学習や発表を通して、方法を工夫したり選んだりすることで、国語における「読む、書く、聞く、話す」の総合的な能力が高められると考える。

これからの国語科の授業では、子供たち一人ひとりの良さや可能性を存分に生かしながら、自ら進んで考えたり、判断したり、表現したり、行動したりできる豊かで創造的な資質や能力を学力の基本とする学力観に立って学習指導を展開する必要がある。このように身に付けた資質や能力がその後の生活において創造的に生きてはたらく力となる。その為に、子供の側に立ち、個に応じた学習指導を基本として子供たちが主役になるような授業の創造を図る必要がある。

このような意味で、課題解決的学習は子供の側に立った、子供たちの「学習課題」ができることで、自分の良さや可能性を発揮しながら意欲的に考えたり、判断したり、表現したりできると考える。

(2) 学習課題設定の方法

課題設定の方向としては、教師が設定し提示する場合と、生徒が設定し提示する場合と生徒と教師で話し合い、練り上げた課題を設定するという三つの方向が考えられる。また、これまでは「登場人物の心情を場面ごとにおさえて読みとろう」等の抽象的な課題が多かったと思う。しかし、課題として取り上げるには生徒が具体的に把握でき、自分自身の課題として解決できるものが望ましい。そのための条件を上げてみる。

- ◆生徒の学習意欲を喚起することができる課題
- ◆生徒が生きてはたらく力を身に付けられる課題
- ◆学習方法や学習活動が具体的で明らかな課題
- ◆自らの力で解決できる課題
- ◆内容や方法に価値のある課題

以上を基本にした指導の手順の例を上げてみる。1時間目に全文通読をし、感想メモを書く。感想メモをもとにして、発表し合い、それぞれの考えの同じところや違うところについて話し合う。話し合いの内容を印刷し、学習課題作成の資料として配り、学級全員の共通課題を設定する。また、課題の内容を場面の中で解決できるもの、文章全体で解決できるもの、単元全体から解決すべきものに分類し、整理しなければならない。感想の中には、疑問や不思議に思ったこと、もっと調べてみたいことなど多岐にわたっているので、似ているものを集約し、課題となりそうなものをまとめる必要がある。

(3) 学習形態の工夫

学習形態と言ってもいろいろな見方があり主に右の表のように分けられる。一般に考えられている学習集団の中の個別学習にも、一人学習として、一人で学び、調べ、制作、表現するという活動がある。ここでは特にグル

学習形態	学習集団の編成	個別（一人学習）、グループ学習、学級、複数学級、異学年集団
	授業過程での活動形態	調べ学習、話し合い、観察、実験、発表、体験学習、ディベート、ロールプレイ、表現活動、自己評価活動
	学習構成	課題学習、問題解決学習

ープ学習の形態において課題解決的学習を取り入れた場合の留意点について考えてみたい。

①グループ学習のねらい

グループ学習の利点を上げると学級集団における自分の位置、能力、個性を自覚できるとともに、他を的確に評価できることである。また、一人よがりになり易い自分の考えを他者の視点から見直したり、補足したりできる。「課題を解決するための作業」を通して、自分の考えを補足し、深化、発展させ、交流したり共有化したりできる。一連の作業は、個性を出し合っの文化の創造の過程ともなる。個性が出し合える、間違ふことにも価値を認め合える雰囲気グループ学習によって達成できるよう取り組ませる。

②グループ編成の際の留意点

◆学習活動のめあて（学習課題）に即してグループを編成する。その際の参考となる生徒の実態が把握できる資料を収集する。（国語の能力、興味・関心、性格、技能等）

◆初めからさまざまなグループ活動に慣れさせておく。（学級活動の活性化）

◆学級集団の状態を的確に判断し、集団の発達段階に応じたグループ編成をする。

③リーダーの要件

●本題にそれない活動ができる

●活動時間の見通しがもてる

●構成員への指示、助言ができる

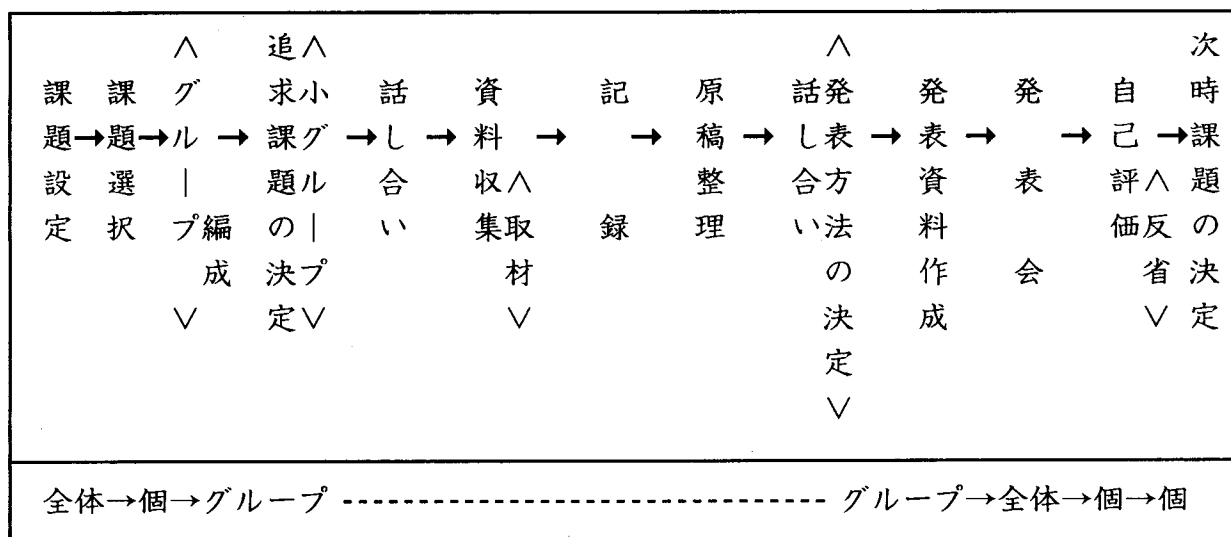
●活動の総括ができる

●仲間に援助ができる

●責任がとれる

必要な条件ではあるが、なるべく多くの子にリーダー的働きを経験させるよう配慮したい。

④課題解決までの手順と発表会における留意点



◆発表においては方法（形式）と内容を十分に検討し、発表原稿の作成や発表者の選出、説明の工夫（機器の活用）など相手を引き付けるための効果的な表現方法を選ぶ。

◆話し合いと質問においては、自由に話し合える雰囲気づくりを日々の授業で行なう必要がある。質問についても教師が強要するのではなく、質問したくなる場を作る。

◆正確に聞き取らせるには、聞き取りメモをもとに班で相互評価させたり、主体的に参加できる工夫が必要。生徒だけで発表が行き詰まった場合も、随時教師が支援を与え、活動に対しては、適宜な評価をしてあげて自信をもたせることが意欲につながると思えるものである。

4. 新しい学力観に立つ評価

(1) 評価の意義

自ら学ぶ意欲を高め、主体的な学習の仕方を身に付けさせるとともに、個に応じた指導の充実を図ることが重要である。このような指導を行なう上では、評価のあり方も深く関わっており、指導の改善に生かす評価という視点を重視するとともに、評価を通して生徒の学習意欲を喚起することが大切である。また、個に応じた指導を進める上でも学習過程における評価は欠かせない要素である。

観点別学習状況の評価の観点

国語への関心・意欲・態度	国語に対する関心をもち、国語を尊重し、進んで表現したり理解したりしようとする。
表現の能力	自分の考えを豊かにして、目的をもって話したり、自分の考えを順序よく的確に文章に書いたりする。
理解の能力	話し手や書き手の立場をとらえ、話や文章を叙述に即して正確に理解する。
言語についての知識・理解・技能	表現及び理解の能力の基礎となる発音、文字、語句、文、文章等について理解し、習熟している。文字を正しく整えて書く。

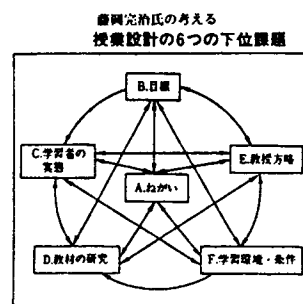
(2) 評価の現状と問題点

- ★一般的に行なわれている評価が、点数化して序列化する測定や評定になっている。
- ★評価を学習指導の改善に生かす観点が弱い。あるいは、評価に基づく指導が工夫されていない。
- ★自己評価の重要性は理解されても、具体的な工夫ができない。
- ★継続的な評価活動が不十分であるため、前時までの子供の学習内容が本時に生かされることが少ない。
- ★観点が知識・理解や技能に偏りがちで興味・関心・意欲については不十分である。



(対 策)

- ★学習状況を子供の側に立って的確にとらえる工夫をする。
- ★主体的に学習している進歩を認め、励ますようにする。
- ★形成的な評価や総括的な評価を活用する。
- ★動機付けの段階での評価を工夫する。
- ★「自己実現」に役立つように「自己評価」することを身に付けさせる。
- ★いつ、どこで、何をもとに、どのように評価するのかを工夫する。



(3) 古典学習における評価（1学年）

表現・言語 事項	……●古文の言葉遣いや言い回しの理解を深めて、古典の文章を朗読することができたか。
-------------	---

- 漢文特有の言い回しに注意し、朗読を工夫して読み慣れることができたか。

理解

- 古典の文章を読んで、古人の考え方を受けとめ、現代の自分達の生き方と比べて感想をもつことができたか。

- 物語を読んで、情景を読み味わったり、作者のものの見方、感じ方を読みとることができたか。

- 故事成語の意味をその由来に基づいてとらえ、その用い方がわかる。

関心・意欲

態度

- 自ら進んで古典に親しもうとしているか。
- 古文や漢文を進んで朗読しようとしているか。
- 古典を学んで、文化や伝統について関心を深めようとしているか。

(4) 課題解決的学習発表会における評価の工夫

関心・意欲 ・態度	★何を調べようとしたのか、各グループの動機、目的や意図が述べられているか、聞き手の立場から考える。
表現の能力	★自分達が資料や図書で調べたり取材したりしたことを根拠に、要旨を工夫して構成する。
理解の能力	★聞き手によく分かるように、事例の順序や段落と段落のつながりを考えながら発表原稿を作成する。 ★一文の適当な長さを判断し、あまり長くないようにする。 ★聞き取りやすい言葉、具体的に理解できる言葉の表現を工夫する。
表現の能力	★聞き手に内容がよく理解されるように、声の音量、速度、強弱、間の取り方、相手の反応の確認等を工夫する。
言語についての知識・理解・技能	★内容に応じて、絵画、グラフ、写真、機器等を活用する。 ★発表時間が制限時間内に収まるか、限られた時間で有意義に発表ができるように工夫する。

下の表は発表会における評価の工夫をしたものである。

教師による評価

自己評価、相互評価、教師による評価、形成評価等を取り入れて意欲の喚起を図った。

自己評価

相互評価

(学習者用記入)

自己評価カード

1年6月31日 発表

質問内容	A. よくできた (とても褒めよう) B. できた (褒めよう) C. できなかった (褒めない)
古典に親れ、興味、関心をもつことができたか。	A. B. C.
ビデオ・パネル・OHPで楽しくわかりやすく学べたか。	A. B. C.
グループの活動や発表は協力して楽しくできたか。	A. B. C.
他の古典作品をもっと読んでみたいと思うか。	A. B. C.
国文学の文学作品についてもっと知りたいと思うか。	A. B. C.
学習発表会(1年6月31日)に出席できたか。	A. B. C.
古文のリズムや表現の特色を生かして発表できたか。	A. B. C.
古典を学習しての感想を書くことができたか。	A. B. C.
あらすじをまとめることができたか。	A. B. C.
作品の中の人物の心情を読みとることができたか。	A. B. C.
古人の生き方・考え方を理解することができたか。	A. B. C.
発表時間(1年6月31日)に発表できたか。	A. B. C.
発表内容を覚えることができたか。	A. B. C.
発表時間(1年6月31日)に発表できたか。	A. B. C.

相互評価カード

1年6月31日 発表

質問内容	A. よくできた (とても褒めよう) B. できた (褒めよう) C. できなかった (褒めない)
発表内容	A. B. C.
発表態度	A. B. C.
発表時間	A. B. C.
発表場所	A. B. C.
発表内容	A. B. C.
発表態度	A. B. C.
発表時間	A. B. C.
発表場所	A. B. C.
発表内容	A. B. C.
発表態度	A. B. C.
発表時間	A. B. C.
発表場所	A. B. C.

国語 観点別学習状況評価のための補助簿

観点	言語活動	読解活動	表現活動	読書活動	学習態度
言語活動	○	○	○	○	○
読解活動	○	○	○	○	○
表現活動	○	○	○	○	○
読書活動	○	○	○	○	○
学習態度	○	○	○	○	○
言語活動	○	○	○	○	○
読解活動	○	○	○	○	○
表現活動	○	○	○	○	○
読書活動	○	○	○	○	○
学習態度	○	○	○	○	○
言語活動	○	○	○	○	○
読解活動	○	○	○	○	○
表現活動	○	○	○	○	○
読書活動	○	○	○	○	○
学習態度	○	○	○	○	○

(5) 個に応じた指導の工夫

個に応じた指導は、生徒一人ひとりの学習意欲を高め、基礎的・基本的な国語の能力を確実に身に付けさせ、それぞれの個性や能力を最大限に伸ばし、豊かな国語力の育成を図るところにある。したがって、学習指導のあり方については、多様な観点から次のような方法が挙げられる。

- ①学習指導計画の作成 →学習計画の立案に生徒の積極的参加を図る。
②教材の工夫 →興味・関心のもてる教材、多様化できるものを選ぶ。
③個に応じた指導と評価→目標に照らし、点検と評価を行い、指導に活用する。

ア、学習前 ・古典についての知識、関心の調査

- これまでに読んだことのある古典、知っている古典を挙げさせる。

イ、学習中 ・ 観察及びノート点検

・音読チャレンジカードによる暗唱テスト

・自己評価

- ・ノートのとまとめ方、発表の仕方、資料の活用の仕方の観察
- ・表現した短作文（感想文）を机間指導する。

- ・発表会評価カードによる相互評価をさせる。

ウ、学習後

- ・完成した短作文や感想などから、古典への迫り方を調べる
- ・漢字テスト、進級テスト、定期テストの実施
- ・古典学習をふりかえっての総合評価をさせる。(ワークシート)

- ④学習形態の工夫 →ねらいに即して学習形態を工夫する。
- ⑤発問の工夫 →生徒の反応の予想、抽象的発問から具体的発問へ、基本的発問から応用発展的発問へと変えていく。
- ⑥ノート・ワークシートの工夫 →自分なりに工夫しているか、個のペースで記入させる。
- ⑦教育機器の活用 →具体的な資料を提示して、事物や現象を的確に理解させる。

以上の項目等が挙げられるが、中でも特に③の個に応じた指導と評価に重点をおき、個のペースに応じて音読練習をさせ、暗唱へと発展させることで関心を高めたり、地域教材を取り入れて古典を身近に感じさせること等をめざしていきたい。

《評価資料》 竹取物語のまとめ

単語を調べて

6月 7月 8月

古典との出会い

●がんばったこと、できたこと、満足したことと○をつけよう。

読書や映画やテレビなどについて	△	食生活や生活リズムなどについて	○
自分や他人に対しての気持ちや態度	△	勉強生活や学校生活などについて	○
学習態度や努力の姿勢などについて	△	学習生活や学校生活などについて	○
自分や他人の長所・短所などについて	△	勉強や学習生活などについて	○
生活リズムや習慣などについて	△	勉強生活などについて	△

●学習態度の学習を評価すると自己満足点と何点になりますか。なぜその点数をつけたか理由を簡単に説明してください。(良かったところ、悪かったところをふくめて)

(7/7)

7月 8月 9月

○ 自分たちが作った音楽資料がよまじに
 7月8月のでかかっと思ひます
 (マナウス画)

○ 意見がむじもなでかかきり音楽でさかめた

★この学習でどんな国語の力が身についたかと思ひますか。

○ 音のちちり言葉が、あつた、いうい
 なことばが身についたと思ひます

★次の学習でがんばりたいことはどんなことですか。

○ 勉強で、意見をもつ、がんばりつたと思ひます

郷土教材への興味・関心

羽衣伝説を読んだ感想を書こう。

「自分たちの学友、友のすぐ近くに、
一々羽衣伝説がある」とはとてもすこ
いて思っています。
今習っている『天女』と比べてみ
ると、天女をたていうこととまじり
所があまりありません。
新羅王は、本当に天女の子供だった
すといふも思っています。
よくよく語だけであらまてよくと、ち
う所がいえるところがありました。



一年ら組
34番
佐伯

雄賀宮 中国唐の
に入つておきて
て宮をのつか、東
宮をのつかうこと。
羽衣を羽衣があった。

雄賀宮 唐 唐
(1321 ~ 1396)

雄賀宮ははじめた最初の王「雄賀王」にはじ
中国（明）に進貢した王で、雄賀王東
シアとの貿易も開始した。
●雄賀宮の雄賀王（雄賀宮の雄賀王）の出来
雄賀宮の雄賀王と天女のあいだに生まれた
い伝説がある。また、雄賀宮の雄賀王の
い、自分の国から来る日本の雄賀王につく
買入れ、雄賀王にかけあてて雄賀王をつくらせ
いう。こうして人々をつかんだ雄賀王は雄賀
なり、1350年、雄賀王の雄賀王の雄賀王が死ぬと
王におされた。1377年、はじめに中国に進貢
かれは、雄賀王の雄賀王の雄賀王におこな
1392年、中国に3人の雄賀王をおくった
れはじめてであった。また、このころ中国
雄賀王が即位してきて久米村をつく

V 授業実践

国語科学習指導案

平成9年 12月16日(火) 5校時
真志喜中学校 1年6組
男子20名 女子16名 計36名
授業者 宮城優子

1 単元名 古典との出会い

2 単元の目標 昔の文章に出会い、現代とのつながりを考える。

3 単元設定の理由

小学校入学以来、国語科で学習したのは、文種の違いはあるにしても、近代あるいは現代という時代の横に広がる各種の文章であった。それらをささえる歴史的な言語および言語文化については、中学生になって初めて、本単元において学習することになる。

中学生になると知的好奇心が増大し、知識欲・語彙力も高まり、ものの本質・原理を追求する気持ちも強くなる。一年生も二学期に入ると、着実な思考をするようになり、読書の領域も広がってくる。この時期に、落ち着いた雰囲気の中で古典の学習を始め、古典の世界へと導くことは大切である。古典は、日本人の思考、生活感情、生活様式、文字、歴史について、時代を超えた伝統の系譜を受け継いでいるもので、かつ、民族を超えた普遍的な人間性の真実をもっている。それぞれの時代の人々の個性的な生き方・考え方が描かれるが、同時に、生きるための規範性も備えているがために、現代を照射し、現代人の心に深く入っていくことができる。

一年は古典との出会いであるから、古典がどういうものかを知り、音読によって文語のリズムに慣れさせ、表現のしかたや古典に関心をもたせることが最大のねらいである。すなわち、昔の人のものの見方や考え方・感じ方を理解させ、現代と共通するもの・異にするものを古典の中に発見させることであると考える。そこで、古典をより身近に感じ、親しませるための工夫として郷土文学の教材化を試みた。

古典の学習では、一語一語を大切に扱う習慣を身につけさせたい。これは、文脈の中で理解すると同時にその作品の時代や社会に還元してつかむことであり、古人の息づかいを探ることである。学習を通して生徒各人は自らの存在や生き方に思いを巡らすようになるであろうし、言語感覚を養うことで国語を尊重する態度を育てたい。

4 教材名 蓬萊の玉の枝

5 教材について

紫式部が「物語の祖」と呼んだ「竹取物語」は、現存する日本最古の仮名で書かれた物語であり、後の文学に多大の影響を与え、また現在まで優れた古典として継承されている。

この教材「蓬萊の玉の枝」は、竹取の翁とかぐや姫とくらのもちの皇子の三者で構成される物語と、くらのもちの皇子の語る冒険談の内容と、富士山の地名起源説という三重構造になっている。第一はドラマ性、第二は理想性、第三は伝承性をもつ。原文の、簡潔でリズムミカルな文体、的確な描写などを朗読によって十分味わわせたい。また竹取物語は文学史の中で重要な位置を占めるが、そういう文学史についての関心や古典への読書意欲を喚起することも意図している。

6 生徒の実態

子供達は、中学生になって初めて「古典」の学習に入る。そのイメージを尋ねたところ「古くさい感じ」「難しいもの」「昔からの伝統」という答えが返ってきた。この教材に入る前には、幼少から親しんできた「浦島太郎」を学習し、古典文学を学ぶ意義については大まかにふれている。また、国語学習に結びつく読書への関心については、数名の生徒が特に関心が高いためかクラス全体の読書量は、毎月、学年のトップである。

〈アンケート集計結果〉

実施日 平成9年 11月18日(火)
対象 真志喜中学校 1年 6組
男子19名 女子16名 計35名

★これから「古典学習」に入るにあたってのアンケートを行ないます。
できるだけ自分の気持ちに正直に答えてください。(記号を○で囲む)

(1)「古典」という言葉について

- ア. 聞いたことがない、知らない
イ. 聞いたことはあるが、意味はわからない
ウ. 聞いたことがあり、意味もわかる

(2)「古典」という言葉からどんなことをイメージしますか。

- ア. 古い イ. 古い辞典 ウ. 昔話 エ. 昔のこと オ. 昔の文字
カ. 歴史 キ. 古い伝統 ク. 文化 ケ. 難しい勉強

(3)「かくや姫」の話について

- ア. 聞いたことがない、知らない
イ. 聞いたことはあるが、内容はよくわからない
ウ. 聞いたことがあり、内容も知っている

(4)あなたはどんな授業の時、意欲的に取り組みますか。

- ア. 先生が中心になって皆に説明している時
イ. グループで調べたり、発表したりする時
ウ. 一人で調べたりまとめた時
エ. 友達同志で教えあって学習した時

(5)これまでの授業で興味^{ウツク}がわいたのはどんな時ですか。

- ア. 言葉だけで説明してくれた時 イ. カードに書いて説明してくれた時
ウ. カセットテープ・写真・ビデオを使った時
エ. 朗読したり覚えたりする時 オ. ワークシートの問題を解いた時

(6)あなたはこれまで国語や他の授業で神輿に関する作品を学んだことがありますか。 あると答えた人は()に作品名を書いてください。

- ア. 紅型 イ. 戦争 ウ. 歴史 エ. 方言版桃太郎 オ. ない

(7)宜野湾市の「^{はなつ}羽衣伝説」について

- ア. 聞いたことがない
イ. 聞いたことはあるが内容はよく知らない
ウ. 聞いたことがあり、内容もよく知っている

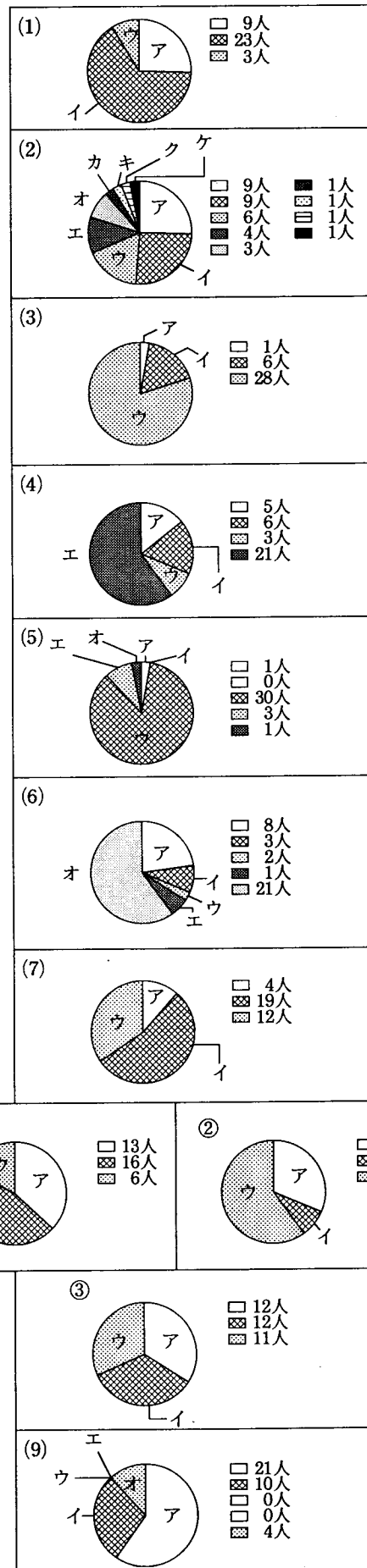
(8)神輿の方言について①～③の問いから一つずつ選んでください。

- ①
ア. 聞くことも話すこともできない ア. 方言は好きである
イ. 聞くことはできるが話せない イ. 方言はきらいである
ウ. 聞くことも話すこともある程度できる ウ. どちらでもない

- ③
ア. 方言が話せるようになりたい
イ. 方言は話せなくてもよい
ウ. よくわからない

(9)家族で方言を使う人は主にだれですか。

- ア. 祖父・祖母 イ. 父親・母親 ウ. 兄弟姉妹
エ. 自分 オ. いない



7 指導計画 (12時間)

時間	学 習 活 動	観 点 の 価 評				教 材 教 具 の 工 夫
		関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語の知識・理解・技能	
1	・ビデオを見ることにより、竹取物語の概要や登場人物を押さえ、興味をもたせる。	・古典の学習に興味や関心をもち、自分の目標を定めて取り組む気持ちをもつ。		・ビデオ学習の要点をまとめることができる。 ・物語の時代背景が理解できる。		ワークシート
2	・「蓬菜の玉の枝」の部分のテープを聞く。 ・成立年代、文学史における位置を学び、当時の人々の考え方にふれる。	・竹取物語や当時の人々のものの見方や生き方、考え方に興味をもつ。		・古文特有の読み方を聞くことができる。 ・文学史における位置が理解できる。	・古文特有の表現を聞くことができる。	パネル 年 表 ラジカセ
3	・新出漢字を書いて覚える。 ・歴史的仮名遣いに気をつけて古文を音読する。	・進んで書き取りの練習をする。 ・歴史的仮名遣いに気をつけて音読ができる。	・古文のリズムや表現の特徴に注意して音読することができる。		・正しい書き順で書くことができる。 ・歴史的仮名遣いの読み方がわかる。	漢 字 カード フラッシュ カード
4	・古語の意味をおさえ、古文を現代文に直す。 ・冒頭文を覚える。	・課題に興味を示し進んで取り組む。 ・カードをもとに自己のペースで覚えようとする。		・古語の意味、文法を理解した上で口語訳を理解することができる。 ・係り結びがわかる。	・文語特有の表現や難語句の意味がわかる。 ・主語の省略に気づき、補うことができる。	フラッシュ カード ワーク シート 音読カード
5	・地域に古くから伝わる「羽衣伝説」について詳しく知る。 ・「竹取物語」にいくつかの和歌が詠まれていることから郷土の「琉歌」についてもふれる。	・郷土の伝説に関心をもち、より詳しく知る。	・学習後の感想を書くことができる。	・「羽衣伝説」について理解する。 ・歌に表れた古人のものの見方、考え方にふれる。	・方言の読み、歌の意味をとらえることができる。	沖縄の 文学 パネル
6 9	・学習を通して学んだ古人のものの見方、考え方について感想を書く。 ・五つの班に分かれ課題別に調べ学習に取り組む。	・取り上げた課題に興味を示し、意欲的に取り組んでいる。	・古人のものの見方考え方について現代の自分と比べて感想を書くことができる。	・課題について調べることができる。		ワーク シート 課題別 ワーク シート
10	・調べたことをグラフ用紙やとりのこ用紙に書き写す ・発表会のシナリオを作成する。	・班員と協力して諸活動に取り組んでいる。	・調べたことを文章化したり、イメージを絵で表したりできる。		・方言の読みや琉歌の大意がわかる。	グラフ用紙 マジック 色画用紙
11 (本時)	・調べ学習の成果を発表することで、古典学習への知識・理解を深める。	・自己評価、相互評価を行い、成就感をもつ。 ・諸活動を通して古人の生き方にふれ、親しみを抱く。	・発表の内容をとらえ、自分の感想を表現することができる。	・発表を聞いて自分の考えを深めることができる。	・冒頭文の暗唱ができる。 ・古典の学習で学んだ基礎的なことを発表の中に生かすことができる。	OHP ラジカセ パネル 掲示資料 評価カード
12	・「竹取物語」の学習を終えての自己評価をする。 ・仮名遣いや語句についての定着度を知る。	・古典に興味をもち関連した図書などを読もうとする。	・古典学習の反省を書くことができる。	・学習の評価をすることで達成度が理解できる。	・歴史的仮名遣いや古語の意味がわかる。	評価カード (短作文) 進級テスト 漢字テスト

8 本時の指導

- (1) 本時のねらい ①古文のリズムや表現の特徴を生かして暗唱することができる。
 ②各班の調べ学習の成果を発表することができる。
 ③他の班の発表を聞いて自分の知識や考えを深める。
- (2) 本時の仮説 ①教具の工夫により、古典学習に興味をもって取り組めるであろう。
 ②各班の発表を聞くことで学習を発展させることができるであろう。
 ③郷土教材にふれることで、郷土文学への関心が高まるであろう。
- (3) 本時の展開



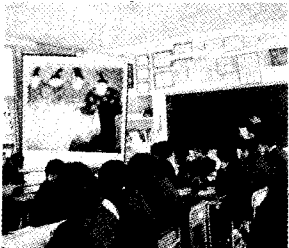
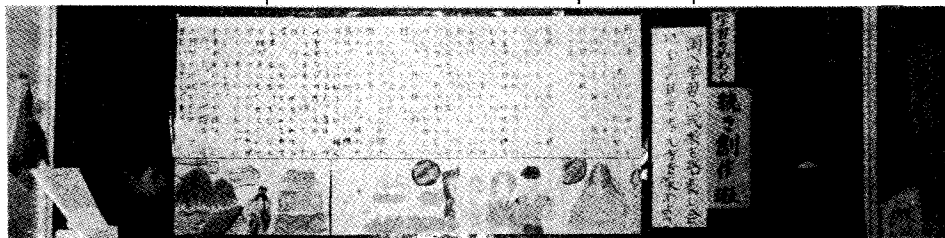
一斉指導



個別指導



評価活動

学習の流れ	学習活動	教師の支援	教材教具	観点別評価	方法
(はじめ)	1. 本時のめあてを確認する。	・発表を聞いて、評価や感想を書くことを説明する。	フラッシュカード 評価カード	・内容に興味をもち静かに聞いているか。 〈関心・意欲・態度〉	観察法
暗唱	2. 学習の成果として古文の冒頭文を暗唱する。	・歴史的かなづかい、文の区切りに気をつけているか確認する。	音読カード	・古文のリズムや表現の特徴を生かして朗読することができたか。 〈表現の能力〉	観察法 自己評価
発表	3. 調べ学習の成果をプログラム順に発表する。 司会 内間沙和季	・協力して進んで発表ができるよう助言を与える。		・内容に興味をもち進んで発表することができたか。 〈関心・意欲・態度〉	観察法
	(1)「紙芝居」班 ・竹取物語の内容を8つの場面に分け、イメージを絵で表す。	・教科書に挿し絵がない部分は想像力を働かせて書いたことを知らせる。		・内容の要点をとらえ、イメージを表現することができたか 〈表現の能力〉	観察法
評価		⑤ ～紙芝居班の発表～ ・OHPを使って絵を拡大してみる。	OHP TPシート	・物語の5W1Hをおさえて、あらすじをまとめることができたか 〈理解の能力〉	自己評価
発表	(2)「続き創作」班 ・その後のかぐや姫の生活を想像した話を発表する。	・絵巻にすることでわかりやすくなるようにさせる。	掲示資料 テーブルコーダー	・物語を発展させ、人物の心情を自分なりに想像できたか。 〈表現の能力〉	観察法
評価		～続き創作班の発表～			

発表	(3)「古人の考え方」班 ・古典を学んで、古人のものの見方・考え方を調べる。	・古典が現代にも通ずるところがあることに気づかせる。	掲示資料	・古人の生き方・考え方にふれ、現代に生きる自分の考えを深めることができたか。	感想文	
評価	～古人の考え方班の発表～		〈理解の能力〉			
発表	(4)「羽衣伝説」班 ・竹取物語と羽衣伝説との共通点を調べる。	・宜野湾市の伝説にふれることで郷土への関心を高める。	沖縄の文 学 地 図 パネ ル 掲 示 資 料	・郷土の伝説に興味をもち進んで発表したり調べたりできたか。	観察法 感想文	
評価	～羽衣伝説班の発表～		〈関心・意欲・態度〉			
評価	(5)「月の琉歌」班 ・多くの琉歌の中から竹取物語との関連を考えて、月に関する琉歌を選んで紹介する。	・方言よみを聞かせることで郷土の言葉や文学に親しみを感じさせ関心がもてるようにする。	テープレ コーダー 掲示資料 パネ ル	・沖縄方言の読み方がわかったか。 〈言語事項〉 ・琉歌の大意をとらえることができたか 〈理解の能力〉	自己評価	
～月の琉歌班の発表～		自己評価				
質問	4. これまでの発表を聞いて、疑問点があれば話し合う。	・質問がなければ、評価カードをもとに指名する。	・内容に興味を示し意欲的に学習に取り組めたか。 〈関心・意欲・態度〉			観察法
回答	(班長は質問に答える)					

～質問をし班長が答える～



5. 学習後の感想を書く。

・感想のできればを机間指導をしながら見ていき、遅れている生徒には助言を与える。

評価カード

・昔の人のものの見方・考え方について現代の自分達と比べて考えることができたか。

〈表現の能力〉
〈理解の能力〉

感想文

～机間指導～



6. 感想を発表する。

・挙手がなければ書けた生徒を指名する。

・学習に興味をもって取り組み自分の考えを表すことができたか。

〈関心・意欲・態度〉
〈表現の能力〉

観察法
感想文

7. 本時のまとめを聞く。

・頑張ったところを取り立てて労をねぎらう。
・本時のまとめと次時予告をする。

発表

おわり

課題の取り上げ方（例）

○印の生徒の疑問を小課題として設定し、学習過程の中で解決できるようにする。

〈生徒の初発の感想から課題を見つける方法〉



- ①月をまともに見ると不吉なことが起こるのはなぜだろうか。それは、日本人だけの考えなのか。
- ②しゃれのすきな作者が作ったしゃれにはどんなものがあったのか。
- ③昔の言葉（古語）の意味を調べよう。
- ④中国にもこのような伝説があるのだろうか。
- ⑤昔の人はなぜこのような話を作ったのか。
- ⑥なぜかぐや姫を月に帰したくなかったのか。
- ⑦かぐや姫は何のために地上に降りてきたのか。
- ⑧竹取物語はどんな国の人達に読まれているのだろうか。
- ⑨紙芝居のかぐや姫とは同じ内容なのか。

紙芝居班		読書創作班		月の班歌班	
読書	① かぐや姫は、 月をまともに見ると 不吉なことが起こるの はなぜだろうか。	読書	② しゃれのすきな作者が 作ったしゃれにはど んなものがあったのか。	読書	③ 昔の言葉（古語）の 意味を調べよう。
文庫	④ 中国にもこのような 伝説があるのだろうか。	読書	⑤ 昔の人はなぜこのよ うな話を作ったのか。	読書	⑥ なぜかぐや姫を月に 帰したくなかったのか。
読本	⑦ かぐや姫は何のため に地上に降りてきた のか。	読書	⑧ 竹取物語はどんな 国の人達に読まれて いるのだろうか。	読書	⑨ 紙芝居のかぐや姫 とは同じ内容なのか。
文庫	⑩ かぐや姫は、月を まともに見ると不 吉なことが起こるの はなぜだろうか。	読書	⑪ しゃれのすきな作 者が作ったしゃれ にはどんなものが あったのか。	読書	⑫ 昔の言葉（古語） の意味を調べよう。
文庫	⑬ 中国にもこのよう な伝説があるのだ らうか。	読書	⑭ 昔の人はなぜこの ような話を作った のか。	読書	⑮ なぜかぐや姫を月 に帰したくなかつ たのか。
文庫	⑯ かぐや姫は何のた めに地上に降りて きたのか。	読書	⑰ 竹取物語はど んな国の人達に 読まれているの だろうか。	読書	⑱ 紙芝居のかぐや 姫とは同じ内容 なのか。
文庫	⑲ かぐや姫は、月 をまともに見ると 不吉なことが起こ るのはなぜだろ うか。	読書	⑳ しゃれのすきな 作者が作ったしゃ れにはどんなもの があったのか。	読書	㉑ 昔の言葉（古語） の意味を調べよう。
文庫	㉒ 中国にもこのよ うな伝説がある のだろうか。	読書	㉓ 昔の人はなぜこ のような話を作 ったのか。	読書	㉔ なぜかぐや姫を 月に帰したくな かったのか。
文庫	㉕ かぐや姫は何の ために地上に降 りてきたのか。	読書	㉖ 竹取物語はど んな国の人達に 読まれているの だろうか。	読書	㉗ 紙芝居のかぐや 姫とは同じ内容 なのか。



9. 《資料》ワークシートの工夫

ワークシートを使った学習は、生徒一人ひとりが、自分の力に応じて自分の文章を読み、自分で学習課題に取り組むことによって、自分の理解力を確認しつつ、力を付けていくことができる。

ワークシート学習を通して、「こういう読み方をすればいいんだな」ということを生徒一人ひとりがわかることが大切である。

★留意点

- (1)作業の指示がシートに書かれている場合は順次、それに取り組んでいき、自分で学習内容と到達度を確認しながら進めていくか、作業終了後に集団で確認するかである。その際、取り組みの遅い子への配慮と全体の動きを見極める指導者の力が大切である。
- (2)教師の指示でこなしていくシートの場合は、一つの作業ごとに集団で確認がなされる。取り組みの遅い生徒も安心して作業に取り組むやすい。初めて教える集団には(2)の方が扱いやすい。

(1)のシートの例

古人の考え方

主 な 表 現	脚くばかりの美しさを備えたかぐや姫 三月月一人前の娘に育つこと 黄金のつまつた竹をたびたびみつけ 格闘になる娘 にやにやの彼をつくらせ、 くらもちの息子 冒険旅に出てくる蓬莱山や天女 かぐや姫の出した五つの宝物 かくや姫が備える月の鏡 天人の時参した不死の薬	昔の人の生き方、考え方 が、かくと、僕。たらましく、感 じられて、偉。たらましく、大。はな てい。と、思。じ。た。か。ら、 美。い。も。へ。が。こ。れ。た。 昔。の。人。は、早。く、死。ぬ。が。う ろ。成。長。し。て、長。生。き。し た。か。ら。 作者自身か、賢しきから、 戒。さ。れて、金。持。ち。に。な。り。た。だ。 た。 飛。だ。く。み。を。し。て。も、欲。し。い。も の。を。手。に。入。れ。た。り。し。て、か。ぐ。や 姫。と。結。婚。し。た。か。ら。 ま。い。し。も、や。さ。れ。い。な。め。に か。い。が。た。て、給。い。し。る。を 手。に。入。れ。か。う。と。する。気。持。ち 地上より、も。た。の。し。い。所 や。み。た。こ。ろ。な。い。世。界。へ の。決。め。が。り。あ。つ。た。 不老不死でいたし、 死ぬりがこわい気持ち。
------------------	--	--

続き創作

[illegible]

月の琉歌

山 田 道歌とは何か。	⑧ 王 今歌仙歌 天沙雪集 道歌、道歌にいたるまでいろいろな階層の人々 集り、古くから神曲の人々に類して来れてきた歌で、 三十首の形式となつてゐる。	⑨ 王 今歌仙歌 天沙雪集 道歌、道歌にいたるまでいろいろな階層の人々 集り、古くから神曲の人々に類して来れてきた歌で、 三十首の形式となつてゐる。	⑩ 王 今歌仙歌 天沙雪集 道歌、道歌にいたるまでいろいろな階層の人々 集り、古くから神曲の人々に類して来れてきた歌で、 三十首の形式となつてゐる。	⑪ 王 今歌仙歌 天沙雪集 道歌、道歌にいたるまでいろいろな階層の人々 集り、古くから神曲の人々に類して来れてきた歌で、 三十首の形式となつてゐる。	⑫ 王 今歌仙歌 天沙雪集 道歌、道歌にいたるまでいろいろな階層の人々 集り、古くから神曲の人々に類して来れてきた歌で、 三十首の形式となつてゐる。	⑬ 王 今歌仙歌 天沙雪集 道歌、道歌にいたるまでいろいろな階層の人々 集り、古くから神曲の人々に類して来れてきた歌で、 三十首の形式となつてゐる。	⑭ 王 今歌仙歌 天沙雪集 道歌、道歌にいたるまでいろいろな階層の人々 集り、古くから神曲の人々に類して来れてきた歌で、 三十首の形式となつてゐる。	⑮ 王 今歌仙歌 天沙雪集 道歌、道歌にいたるまでいろいろな階層の人々 集り、古くから神曲の人々に類して来れてきた歌で、 三十首の形式となつてゐる。	⑯ 王 今歌仙歌 天沙雪集 道歌、道歌にいたるまでいろいろな階層の人々 集り、古くから神曲の人々に類して来れてきた歌で、 三十首の形式となつてゐる。	⑰ 王 今歌仙歌 天沙雪集 道歌、道歌にいたるまでいろいろな階層の人々 集り、古くから神曲の人々に類して来れてきた歌で、 三十首の形式となつてゐる。	⑱ 王 今歌仙歌 天沙雪集 道歌、道歌にいたるまでいろいろな階層の人々 集り、古くから神曲の人々に類して来れてきた歌で、 三十首の形式となつてゐる。	⑲ 王 今歌仙歌 天沙雪集 道歌、道歌にいたるまでいろいろな階層の人々 集り、古くから神曲の人々に類して来れてきた歌で、 三十首の形式となつてゐる。
--------------------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

羽衣伝説との比較

	一冊目 14冊 氏名	『羽衣伝説との比較』	題
調べる項目 成立年代 中心人物 生まれたところ 見たところ	竹取物語 平安時代 公卿や貴族 月夜姫 雲の精	羽衣伝説 鎌倉時代初期 天竺、密教、この子供	雲の川(清水)
物語について 共通点	雲に託身して、いかにして現世にもたんとてにす。 とも。男の心は母娘をなやめた。 月から来て、月に帰る。 重宝をかつぎ、金持ちになる。 月をみてなづく。	天から来て、天に帰る。 黄金に恵まれる。 天をみてなづく。	天に帰ってしまふ (子供は我々明太のありかを知り、我々を罵る)
物語の出来 この出来からうまれた伝説や出来	かぐや姫。 高志山 の士に奪ひ山 ② 不死の薬を焼やした	天竺の子供が琉球の王になった。 (中山王の伝説)	天に帰ってしまふ

《資料》

観点別による形成評価



自己評價集計結果
1年 組 番 氏名

1年 組 第 氏名

※ 全ての質問で三回目にAが増えている。

質 問 内 容		回 数	A よく できた	B できた	C できた かった
調査月日 1 四月 (12A3B) 2 四月 (12A7B) 3 四月 (12A12B)					
国 語 へ の 関 心・ 意 義・ 能 力	古典に慣れ、興味、関心をもつことができた。 ※	100 200 300	12名 16名 20名	19名 17名 13名	4名 2名 2名
	ビデオ・パネル・OHPで楽しくわかりやすく学べた。 ※	100 200 300	13名 9名 23名	19名 23名 11名	3名 3名 1名
	グループの活動や発表は協力して楽しくできた。 ※	100 200 300	11名 12名 17名	20名 20名 17名	4名 3名 1名
	他の古典作品をもっと読んでみたいと思うか。 ※	100 200 300	未調査 9名 11名	未調査 20名 22名	未調査 6名 2名
	師土の文学作品についてもっと知りたいと思うか。 ※	100 200 300	未調査 7名 13名	未調査 26名 20名	未調査 2名 2名
	学習用具(4、ノート、ワラ、ワ(6)は準備できたか。 ※	100 200 300	23名 22名 26名	9名 13名 9名	3名 9名 0名
表 現 の 能 力	古文のリズムや表現の特徴を生かして音読できたか。 ※	100 200 300	13名 12名 16名	14名 21名 17名	8名 2名 2名
	古文のリズムや表現の特徴を生かして暗唱できたか。 ※	100 200 300	11名 9名 16名	18名 23名 17名	6名 3名 2名
	古典を学習しての感想を書くことができたか。 ※	100 200 300	未調査 14名 20名	未調査 19名 14名	未調査 2名 1名
理 解 の 能 力	あらすじをまとめることができたか。 ※	100 200 300	10名 11名 14名	22名 22名 21名	3名 2名 0名
	作品の中の人物の心情を読みとることができたか。 ※	100 200 300	11名 9名 13名	20名 24名 20名	4名 2名 2名
	古人の生き方・考え方を理解することができたか。 ※	100 200 300	13名 10名 16名	20名 24名 19名	2名 1名 1名
	お茶のやうな服装はするものや朝顔とよまうものやあじとよまうものを知ることができたか。 ※	100 200 300	8名 13名 13名	25名 21名 20名	2名 1名 1名
	新出漢字を覚えることができたか。 ※	100 200 300	10名 11名 11名	19名 22名 24名	6名 2名 0名
歴史的版名違いや古語の意味が理解できたか。 ※	100 200 300	10名 12名 17名	17名 19名 16名	8名 4名 2名	

教材別自己評価カード

記入例

(2) 学期 国語評価力一ド

★太い口の中は毎日記入して下さい。

教 材 名	点 名	関心・意欲・態度		意		理		解		言語事項				
		手を上げ た回数		発言回数		A B C		A B C		A B C				
		時	間	時	間	時	間	時	間	時	間			
		時	間	時	間	時	間	時	間	時	間			
龍馬の玉の枝	下	3	3	3	3	3	4	1	3	3	5	7	6	3

古典だより

第1号

古文とは何か

- ・主に江戸時代までに書かれた文章を古文と言ひ、明治以後に書かれた文章を現代文と言ふ。

古典の学習でつけたい力

1. 歴史的かなづかいに気をつけて読む。
ハ行 - フ行
2. 視写することができる。
3. 語句の意味をとらえることができる。
4. 大意をとらえる。(5W1H)
5. 疑問を解決すること。

A → 人物・場面・時代背景
B → 昔の人の生活、生き方、考え方
C → 昔と今の違い
D → 古典独特の表現方法
(主語の省略、係り結び、比喩、対句など)

- 6, 暗唱すること。
7, 発展させること。

古文は、私達の祖先が使っていた言葉です。

音として口でそらんじることにより言葉の心

地よさを味わいましょう。また、時代の流れ

の中で変化してきた言葉についても考えよう。

- (1)「わかりやすい授業」「楽しく学べる授業」をめざして指導方法を模索した。導入の段階では焦りだけが先行し、漢字や語句の指導で遅れている生徒への対応の時間が十分取れなかった。
- (2)授業の半ばでは課題解決的学習のグループ編成や課題選択をした。生徒の興味や能力、性格等を考慮して編成したが、学習を進めながら多少入れ替えを行い、目標が達成できるようにした。
- (3)課題解決的学習に入ると、子供たちは短期間で課題に取り組まなければならないので、意欲的に活動し、それぞれの個性を生かすことができたと思う。
- (4)今回初めて「子供と共に授業を創る」形がとれたことで満足している。いつもの一方的な指導ではなく、授業を創造の場として考え、感激が味わえるような時間が生み出せるようこれからも取り組んでいきたい。
- (5)指導計画を十分に練り、発表時間にゆとりをもたせ、質問や討議が活発にできる授業づくりを心がけたい。
- (6)「発表会」のもち方や方法についての勉強不足を痛感したので、今後は研究を深め多くの生徒が満足できる「学習発表会」にしていきたい。

VI 研究の成果と今後の課題

「教材・教具の工夫と開発」を通して古典教材への関心・意欲を高める理論研究、授業実践を試みてきた。宜野湾市に伝わる羽衣伝説や琉歌などの郷土教材を取り入れながら生徒一人ひとりの興味・関心を念頭におき、個性が生かせるような授業作りを目指した。

検証授業を進めていく中で、幾つかの課題は残ったものの、最終的に子供たちの自己評価や感想の中に「楽しく学べた」「他の古典作品についても知りたい」という意見が多く見られたことは嬉しい限りである。自分の課題に向けて努力し追求していく中で、一人ひとりが変わっていき、「学習して良かった」という満足感をもってくれたことは収穫であった。また、検証授業を通して、自分の指導方法について反省させられ、課題も多く見えてきた。以下、研究全体をふりかえっての成果と課題をまとめてみた。

1. 研究の成果

- (1)手探りではあるが、古典单元の中に郷土教材を幾つか取り入れることで、郷土に目を向けさせ、古典を身近なものに感じさせることができた。
- (2)OHP、ビデオ、パネル、郷土文学等の教材・教具の工夫と開発をし、「楽しく学べる授業」を目指すことができた。
- (3)「課題解決的学習」における学習方法から発表方法までの基本を学び、課題をみつけて研究することができた。
- (4)教師のおしつけではなく、生徒の興味、個性、能力に配慮した学習課題を設定し授業づくりに努力することができた。
- (5)指導過程において観点別評価の実際（いつ、どこで、どんな評価）を工夫できた。

2. 今後の課題

- (1)基礎・基本の定着と指導計画の工夫・改善について。
- (2)質問を多く取り入れた活発な発表会のもち方と教師の支援のあり方はどうあるべきか。
- (3)発表資料やワークシートの効果的な活用のしかたと支援の工夫をどうするか。

終わりに

半年間、現場を離れ、理論研究に専念してきました。成果と課題を持ち帰り、今後の実践に生かしたいと思います。御指導下さった中頭教育事務所の新城トシエ先生、研修の機会を与えて下さった真志喜中の大城校長先生、宜野湾市立教育研究所の山城先生初め職員の皆様に深く感謝申し上げます。時折立ち止まって自己を振り返ることや研鑽の姿勢を忘れず、今後も努力していきたいと思います。

〈主な参考文献・資料〉

学習形態の改善	水越敏行監修・編集	国立教育会館	1995年
中学校観点別評価の実際	亀井浩明・佐野金吾・篠田信司編	教育出版	1994年
国語科における学習指導と評価	文部省	慶應通信株式会社	1993年
国語科の学習指導と評価	小森茂編著	明治図書	1994年
観点別評価と新しい学習観・学力観	静岡授業研究会編	明治図書	1995年
古典指導の方法	甲斐睦朗編	光村図書	1997年
国語科教育実践講座	国語科教育実践講座刊行会	株式会社ニチブン	1997年
琉歌全集	島袋盛敏・翁長俊郎著	武蔵野書院	1995年
個に応じた国語科の授業展開	北川茂治著	明治図書	1987年